



よしだつうしん
吉田通信

第119号
【2024年8月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

◆佐渡で買った3杯のカニ◆

こんにちは。お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第119号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、7月下旬にお客様訪問のために佐渡に行ってきました。佐渡金山が世界文化遺産に登録される前のタイミングです。現地でちょっと時間が空いた際、社員さんから「カニを売っているところがありますから行ってみましようか？」と言われ、行ってみることにしました。

場所は両津港から車で南に約1時間弱の赤泊（あかどまり）です。私は道の駅のようなものがあるのかなと思っていたのですが、たどり着いたそこにあったのは外観が工場のようなお店。「弥吉丸（やきちまる）」という名の大きな看板が掲げられたカニ直売所。ネットで「弥吉丸」と調べてみると、全国的にも珍しく自社漁船を持つカニ直売所で、赤泊港で水揚げ直後に浜茹でするので、身入りが良く甘い、新鮮なベニズワイガニをお買い求めいただけます、とありました。

引き戸を開けて中に入ってみると、手前にスーパーの冷凍食品コーナーのように商品（カニ）が見える冷凍庫と業務用冷蔵庫が並んでいます。そして、その先に事務机が並べてあり、そこでひとりの女性が作業をしていました。お客さんは私と社員さんの2人だけ。女性の方が作業の手を止め、立ち上がって「いらっしやいませ、何がよろしいですか」と言ってきたので、私としては「これは買わずには帰れない…」心境になっていました。

ざっと見てみると、びっくりするくらい安い！ただ、どれを選んだらいいかわからず、最終的には「お買い得！」とあった「丸特」というものを選びました。白いビニール袋にカニが3～4杯入って税込み1540円！という破格。家族が喜ぶだろうと思って購入しました。



船に乗って戻り、家族に「カニ買って来た！」と言うと、妻も娘も喜ばず、怪訝な顔で「カニは食べるのがめんどろ」とのこと……。結局、私がひとりで3杯食べました。1杯はちょっと中身がスカスカでしたが、あとの2杯はとっても美味しく大満足！また佐渡に行った際には、こちらに立ち寄りしたいと思います。

◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございます！さて、毎年、この季節にこちらで書かせていただいておりますが、私は枝豆が大好きです。先日、家で食べた「陽恵（ようけい）」という品種の枝豆は本当にぷりっぷりでとっても美味しかったです。そして、私は家で大量に枝豆を食べるわけですが、家族の中でこんなに食べるのも私だけ。こんなに美味しいのになぜ？と思いつつ、カニ同様、このまま気にせず食べ続けようと思います。吉田竹史

■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが025-372-1138までご連絡をお願いいたします。■

【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）
生年月日：昭和40年8月21日（O型）
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸 & ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）
家族構成：妻、娘、息子



吉運堂



吉田 竹史